

外交をめぐる民主党内の対立
—民主党党大会の時点を念頭に—

西住 祐亮

1. 外交をめぐる3つの基本路線

(1) 主流派の路線

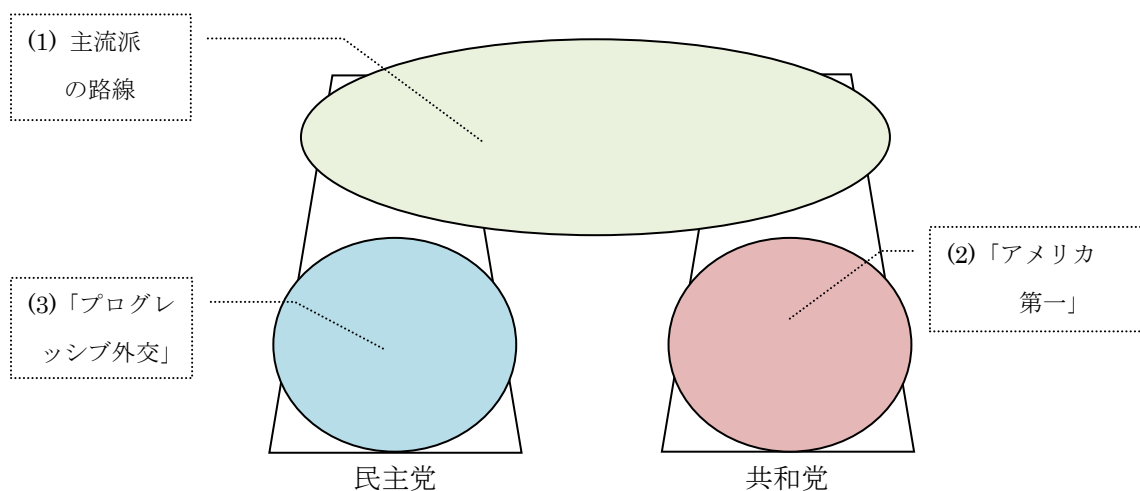
- ①アメリカ主導の既存の国際秩序を重視
民主主義、自由貿易
- ②軍事、経済、価値の全ての領域でリーダーシップ
- ③既存秩序の「復旧」を求める
- ④本来はかなり多様なグループ
- ⑤長らく超党派の支持を確保
ブッシュ、オバマ、バイデンなど

(2) 「アメリカ第一」の路線

- ①既存秩序への強い不信感
対外関与への消極姿勢
高関税政策の推進
民主化・人権促進への無関心
- ②長らく傍流だったが、近年は共和党で支持を拡大
トランプなど

(3) 「プログレッシブ外交」の路線

- ①「第三の路線」
(1)・(2)の双方に反対
民主主義・人権を重視するが、軍事介入や自由貿易には慎重
- ②既存秩序の「改善」を求める
既存秩序の欠陥が「アメリカ第一」を後押ししたと主張
- ③2020年選挙に向けて民主党内で支持を拡大
サンダース、ウォーレンなど



- * 政権交代に関係なく、主流派路線が維持されてきたとの不満が(2)・(3)にはあり
- * 情勢によっては、(2)・(3)の共闘関係が実現する可能性も
- * (2)・(3)は勢力を拡大しているが、外交専門家の層では(1)に及ばない
- * 外交に関しては、党派対立の図式に加えて、こうした図式を理解することが重要

2. 外交をめぐる民主党内の対立

(1) 主流派と「プログレッシブ外交」の対立図式

党内穏健派（中道派）と党内左派

(2) 主な対立争点

- ①イスラエルとの距離のとり方
- ②国防予算の削減 "Defund the Military"
- ③中東・イスラム地域からの米軍撤退
- ④大統領の戦争権限
- ⑤ドローン攻撃・特殊作戦部隊の活用
- ⑥サウジアラビアとの距離のとり方
- ⑦気候変動に関する具体的取組

(3) 民主党予備選におけるバイデン候補

- ①基本的には主流派の外交路線を主張
- ②経験豊富な外交専門家から多くの支持を獲得
- ③ただし外交論戦では守勢に回る場面が目立つ
- ④「プログレッシブ外交」を一部受け入れる姿勢も

(4) サンダース敗退後のバイデン候補

①党内結束を重視する姿勢

サンダースの元顧問・支持者との間で合同作業部会を結成

「気候変動」「刑事司法改革」「教育」「経済」「医療保険」「移民」

②外交政策に関しても党内対話の試み

サンダース派の一部はバイデン陣営に加わる

ただし「外交政策」に関する合同作業部会は結成されず

3. 民主党党大会（20年8月）および今後の注目点

(1) 副大統領候補

①K.ハリスも基本的には主流派の外交路線

イスラエルとの関係強化、国防予算削減への慎重姿勢

②ただし幾つかの争点では党内左派と共鳴

モディ首相（インド）への批判姿勢、気候変動対策への注力

③外交でどこまで存在感を示せるかは不透明

(2) 民主党政綱綱領

①内政・外交ともに左派の主張の盛り込みは期待以下？

②左派系議員（R.カンナ下院議員など）の間で反対表明の動きも

(3) 「バイデン新政権」での外交ポスト

①バイデン陣営は引き続き党内融和を強調

②ただし「プログレッシブ外交」の専門家は手薄

(4) 連邦議会の動向

①連邦議会では左派系議員が伸長傾向

②注目されたNY16選挙区の民主党予備選（20年6月）

左派系のJ.バウマンが下院外交委員長のE.エンゲルに勝利

* 当面は党内結束が容易な争点に集中する可能性

選挙介入防止、対外支援、気候変動など